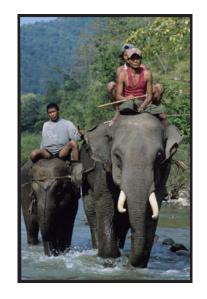
## 未来への遺産ミャンマーの



## 森と人びと





ミャンマー (ビルマ) は軍政から民政へと体制が変わり、 今後、急速な経済開放・開発が見込まれています。 新興国としてミャンマーが秘めるビジネスの可能性に

世界中が注目していますが、注目すべきはそれだけでしょうか。

その広大な森の奥には、半野生の使役ゾウが木材を運搬し人間と共に働く、 東南アジアでも大変めずらしい林業の形態が残っています。そして、少数民族の 人びとは森の恵みを得て、質素ですが豊かな暮らしを営んでいます。

その多様で豊穣な姿を紹介した写真集『ゾウと巡る季節』『ダイドー・ブガ』 (いずれも彩流社刊) からセレクトした写真パネルと、少数民族の人々が使う鮮やかな服や日用品、森の人々が器用に作った道具やおもちゃなどを展示します。野生動物や植物など森のいのちと人びとが共に暮らす、ミャンマーの伝統的な姿をご覧ください。

【会 期】2012年8月27(月)~10月27日(土) 【展示会場】 千代田区立千代田図書館 9階 ミニ展示コーナーほか

\*展示関連イベント\*

ミャンマー (ビルマ) はどうなるのか ――日本との関係から考える

講師:吉田敏浩さん(『ダイドー・ブガ』著者、ジャーナリスト)

根本敬さん(『ビルマ独立への道』著者、上智大学外国語学部教授)

日時:2012年10月12日(金)19:00~20:30(18:30開場)

会場:千代田図書館 10階 会議スペース

定員:25名(参加無料、事前申込不要、当日先着順)

主催:彩流社•千代田区立千代田図書館、協力:大西信吾•吉田敏浩•根本敬